

4-590-341-**02** (1)

UHF シンセサイザー
ダイバーシティチューナー

取扱説明書

URX-S03D

目次

特長

UHF シンセサイザーダイバーシティチューナー URX-S03D は、ソニーの業務用カムコーダーや別売りのワイヤレスアダプターと組み合わせて、2 波受信ができるスロットインタイプのワイヤレスチューナーです。

カムコーダースロットインタイプの 2 チャンネルレシーバー

2 台の送信機の同時運用に対応できるカムコーダースロットインタイプの受信機です。スロットインに未対応のカムコーダーでも、別売のワイヤレスアダプター DWA-01D または DWA-F01D を使って取り付けられます。

XDCAM との組み合わせ

D-sub 15 ピン端子を介して、本機の DSP で処理された 2 チャンネルのデジタル信号を直接カムコーダーに送れます。また、カムコーダーのビューファインダー上で、それぞれのワイヤレスマイクホロンの RF/AF レベルを確認できます。

HDCAM との組み合わせ

D-sub 15 ピン端子を介して、本機からアナログ出力されるシングルチャンネルの音声信号を直接カムコーダーに送れます。2 つの送信機から送られた異なる音声信号を 1 つにミックスし、シングルチャンネルの音声信号として出力することもできます。
また、カムコーダーのビューファインダー上で、それぞれのワイヤレスマイクロホンの RF/AF レベルを確認できます。2 チャンネルとも ON のときはチャンネル 1 を表示、片方のチャンネルのみ ON の場合はそのチャンネルを表示します。

トゥルーダイバーシティ方式

各チャンネルに 2 つの受信回路を搭載し、送信機からの電波を同時に受信して受信状態の良好なほうを自動選択するトゥルーダイバーシティ方式により、広いエリアでも音切れやノイズの発生を抑えた安定した受信が可能です。

ソニーアナログワイレスマイクロホンとの互換性

DSP を搭載し、デジタルコンパンダー処理によって高音質な伝送を実現。コンパンダーモードを切り換えることにより、ソニー製アナログワイヤレスマイクロホンシステム（UWP シリーズ、WRT シリーズ）の送信機と組み合わせて使用できます。

視認性の高いディスプレイ

従来機器と比べてディスプレイの面積が 2 倍になり、視認性が高まりました。また、バックライト付きディスプレイの採用により、暗い場所でのロケや取材でも素早く設定変更が可能です。

電波のサーチ

空きチャンネルを探すクリアチャンネルスキャン、使用チャンネルを探すアクティブチャンネルスキャンにより、現場での電波状況を把握して、希望のチャンネルにセットできます。

赤外線通信機能の搭載

UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使用する場合、本機で設定した周波数とコンパンダーモードを赤外線通信機能で送信できるため、短時間でチャンネル設定が完了します。

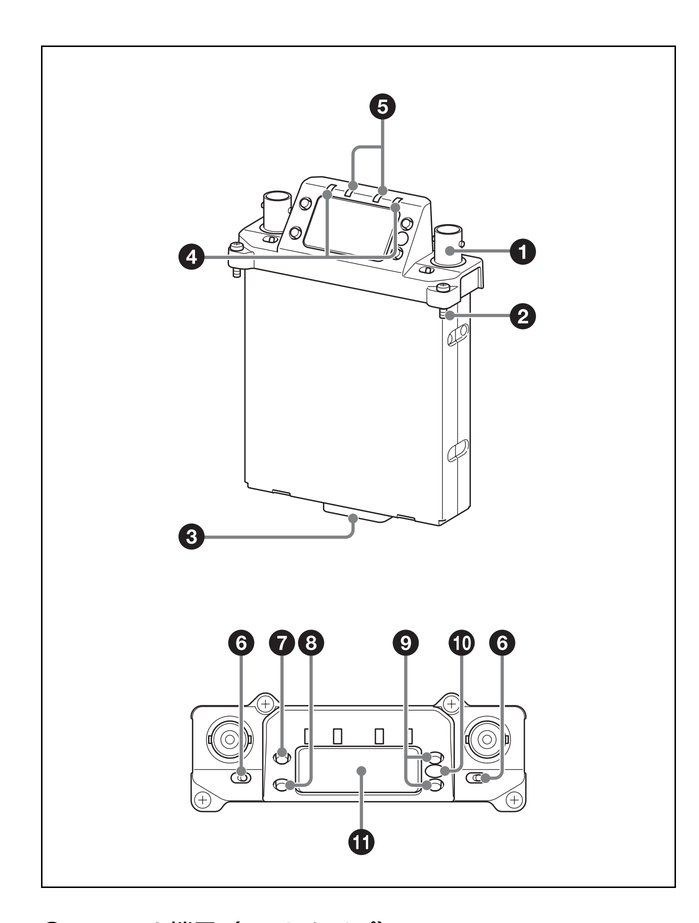
屋外での使用に耐える堅牢な構造

屋外でのハードな使用に耐える堅牢かつ防塵に配慮した構造で、カムコーダーに装着し、アンテナを取り付けた状態で JIS 防滴 II 形の性能を有しています。

スケルチ切り換え機能

使用する状況に応じて、スケルチ機能の ON/OFF を切り換えられます。

各部の名称と働き



❶ アンテナ端子（BNC タイプ）
付属のアンテナを接続します。

❷ 取り付けネジ
カムコーダーやワイヤレスアダプターに取り付けるときに使用します。

❸ アクセサリー端子（D-sub 15 ピン）
カムコーダーやワイヤレスアダプターと接続し、電源やオーディオ信号、制御信号のやり取りを行います。

❹ POWER（電源）インジケーター
電源が入ると緑色に点灯します。
チューナー 1 とチューナー 2 のそれぞれの電源状態を POWER1、POWER2 インジケーターで表示します。

❺ RF（高周波）インジケーター
チューナー 1 とチューナー 2 それぞれの高周波入力レベルを表示します。
緑色点灯：25 dBμ 以上
赤色点灯：15 ～ 25 dBμ
消灯：15 dBμ 未満
0 dBμ ＝ 1 μV_{EMF}

❻ POWER（電源）スイッチ
チューナー 1、チューナー 2 の電源を個別に ON/OFF できます。

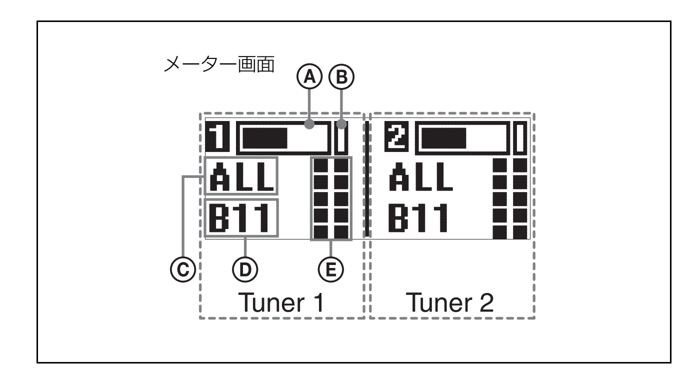
❼ MENU（メニュー）ボタン
ディスプレイに表示されるメニューの種類を切り換えます。

❽ SET（セット）ボタン
ディスプレイに表示された機能を変更したり、調整した値を決定したりします。

❾ ＋または－ボタン
ディスプレイに表示された機能や値を選択します。

❿ 赤外線送信ポート
設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信するためのポートです。

⓫ ディスプレイ部



Ⓐ オーディオ入力レベルメーター
受信したオーディオ信号のレベルを表示します。

Ⓑ ピークインジケーター
オーディオ信号がひずみはじめる 3dB 前で点灯し、過大入力を警告します。

Ⓒ グループ表示
設定されている受信グループ名を表示します。

Ⓓ チャンネル表示
設定されている受信チャンネル名を表示します。

Ⓔ RF レベルメーター
RF 入力レベルを表示します。入力レベルにより点灯する目盛りの数が変わります。
5 目盛りが点灯：50 dBμ 以上
4 目盛りが点灯：40 ～ 49 dBμ
3 目盛りが点灯：30 ～ 39 dBμ
2 目盛りが点灯：20 ～ 29 dBμ
1 目盛りが点灯：10 ～ 19 dBμ
点灯なし：10 dBμ 未満

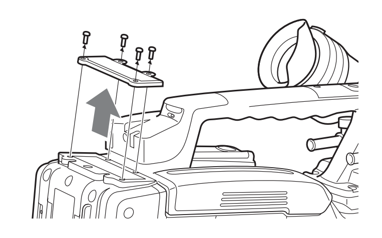
準備

カムコーダー本体に取り付ける

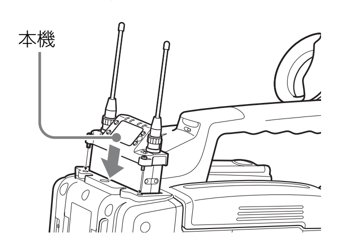
本機に対応したソニー製カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口に取り付けることができます。

1 カムコーダーのワイヤレスレシーバー挿入口のカバーを外し、本機を挿入します。

挿入方向を間違わないために、取り付けネジの位置を確認してから挿入してください。



2 奥まで挿入できたことを確認してから、4 か所の取り付けネジでしっかりと固定してください。



ワイヤレスアダプターを使う

本機を別売のワイヤレスアダプター DWA-01D または DWA-F01D に取り付けると、ポータブルワイヤレスレシーバーとして使用できます。

◆ 取り付けかたについては、DWA-01D または DWA-F01D の取扱説明書をご覧ください。

設定

受信チャンネルを設定する

選択可能なチャンネルグループとチャンネルについては、CD-ROM に収録されている「周波数リスト」を参照してください。

ご注意

混信や雑音を防ぐため、次の点にご注意ください。

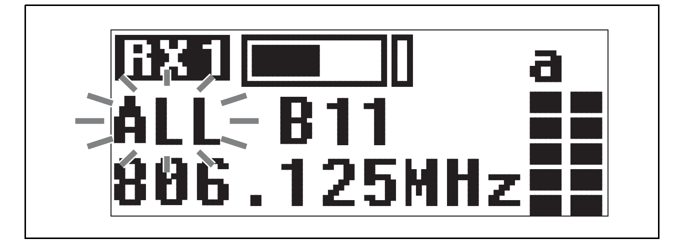
- 同じチャンネルに設定した複数台の送信機を同時に使用しないでください。
- 同時に 2 波以上を使用する場合は、必ず同一グループ内の異なるチャンネルに設定してください。
- 送信機および受信機をそれぞれ3 m以上離して使用してください。

1 POWER1 または POWER2 スイッチを ON にする。

2 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して GP/CH 画面を表示させる。

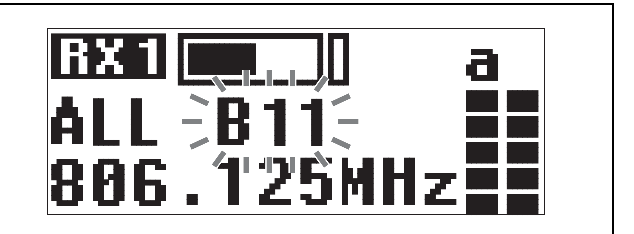
3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示が点滅します。



4 ＋または－ボタンを押して、希望のグループ名を選択し、SET ボタンを押す。

チャンネルグループが設定され、チャンネル番号表示が点滅します。



5 ＋または－ボタンを押して、希望のチャンネル番号を選択し、SET ボタンを押す。

点滅表示が終了し、希望のチャンネルに設定されます。

ご注意

- チャンネルグループ表示またはチャンネル番号表示の点滅中に、10 秒間どのボタンも押さないと、点滅時の設定値で保存されます。この動作は、他の項目を設定する場合も同じです。
- 周波数表示は、チャンネル番号に応じて表示が変わります。
- 受信チャンネルの設定中でも、受信はできます。
- 同一システム内の送信機と受信機は同じチャンネルに設定してください。

グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）

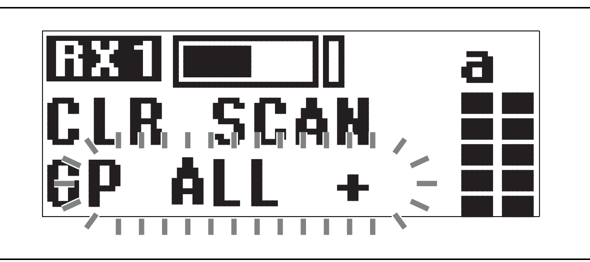
設定されているチャンネルグループ内の空きチャンネルを検索することができます。
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（5 ページ）をご覧ください。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ボタンまたは－ボタンを押して CLR SCAN 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



3 ＋ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、使用可能な空きチャンネルを検索します。空きチャンネルが見つかると、最初の空きチャンネルの番号が点滅します。

次の空きチャンネルを表示させるには
＋ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
－ボタンを押します。CLR SCAN 画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

空きチャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）

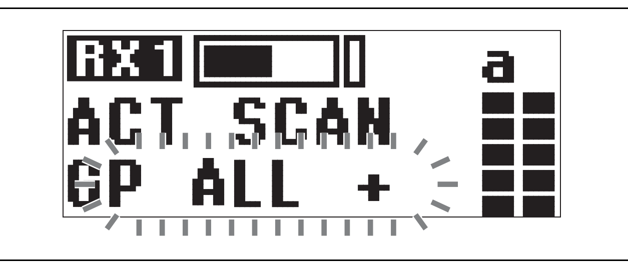
設定されているチャンネルグループ内で、すでに使用しているチャンネルを検索することができます。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。
以下の操作を行う前に、あらかじめチャンネルグループを設定しておいてください。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（5 ページ）をご覧ください。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、+ボタンまたは－ボタンを押して ACT SCAN 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

チャンネルグループ表示と、+表示が点滅するまで長押ししてください。



3 ＋ボタンを押す。

設定されているチャンネルグループの中で、すでに使用しているチャンネルを検索します。使用チャンネルが見つかると、最初の使用チャンネルの番号が点滅します。

次の使用チャンネルを表示させるには
＋ボタンを押します。

検索をキャンセルするには
－ボタンを押します。ACT SCAN 画面に戻ります。

4 希望のチャンネル番号が点滅したら、SET ボタンを押す。

使用チャンネルの検索が終了し、表示されているチャンネルが確定します。

コンパンダーモードを設定する

本機と組み合わせる送信機によって、コンパンダーモードを切り換える必要があります。
チューナー 1、チューナー 2 に異なるコンパンダーモードを設定できます。

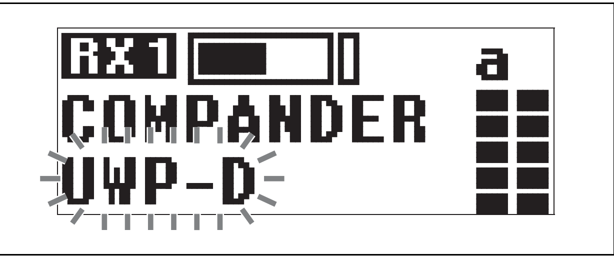
ご注意

- UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使う場合は、送信機のコンパンダーモードも同じ設定にしてください。
- コンパンダーモードの設定が異なる組み合わせで使用すると、トーン信号周波数が異なるため、音が出ません。
- スケルチ機能（7 ページ）を OFF に設定すると、コンパンダーモードが異なっていても音声は出力されます。ただし、出力レベルが変化するなどの影響が出ることがあります。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して COMPANDER 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

選択項目が点滅します。



3 ＋ボタンまたは－ボタンでコンパンダーモードを選択し、SET ボタンを押す。

選択したコンパンダーモードに設定されます。
UWP-D：ソニー UWP-D シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。
UWP：ソニー UWP シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。
WL800：ソニー WRT シリーズの送信機と組み合わせる場合に選択します。

送信機とコンパンダーモードの組み合わせ

使用する送信機に合ったコンパンダーモードに設定します。

ご注意

送信機とコンパンダーモードの設定の組み合わせが適切でない場合は、音が出ません。

送信機		本機のコンパンダーモード		
		UWP-D	UWP	WL800
UWP-D シリーズ（UTX-B03、UTX-M03、UTX-B03HR）	コンパンダーモード：UWP-D	○	×	×
	コンパンダーモード：UWP	×	○	×
	コンパンダーモード：WL800	×	×	○
UWP シリーズ（UTX-B2、UTX-H2）		×	○	×
WRT シリーズ（WRT-822、WRT-860 など）		×	×	○

スケルチ機能を使う

スケルチ機能を使用すると、受信待機時の不要信号やノイズを除去できます。通常は ON にしておきます。妨害電波や外来雑音を探す場合などは OFF にします。
本機には次のようなスケルチ機能がありますが、個別に ON/OFF 操作を行うことはできません。すべて一括で ON/OFF が切り換わります。

- RF（高周波）スケルチ
  RF（高周波）入力レベルが RF スケルチレベル以下になると、オーディオ出力がミューティングされます。RF スケルチレベルは固定です。
- トーンスケルチ
  規定のトーン信号が含まれている電波を受信しない限り、オーディオ出力がミューティングされます。
- ノイズスケルチ
  ノイズが一定レベル以上になると、オーディオ出力がミューティングされます。

ご注意

スケルチ機能の操作を行う前に、必ず接続機器の音量を絞ってください。本機が受信待機中、または RF 入力レベルが低い状態で受信中にスケルチ機能を OFF にすると、ノイズによって接続機器やスピーカーを破損することがあります。

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して SQUELCH 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

選択項目が点滅します。

3 ＋ボタンまたは－ボタンでスケルチ機能の ON/OFF を選択し、SET ボタンを押す。

赤外線通信機能を使う

UWP-D シリーズの送信機と組み合わせて使用する場合は、赤外線通信機能を使って本機から送信機の周波数およびコンパンダーモードを設定できます。

ご注意

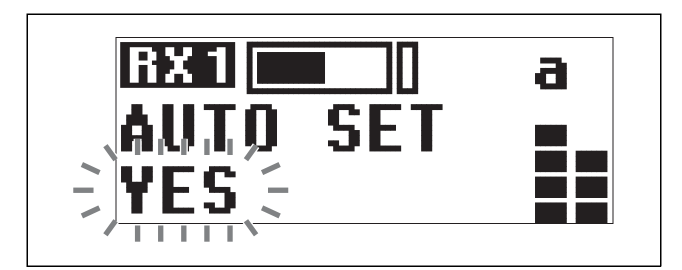
UWP シリーズおよび WRT シリーズの送信機との組み合わせでは、本機能は使用できません。

空きチャンネルを検索し、赤外線通信でチャンネル設定する（AUTO SET）

1 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して AUTO SET 画面を表示させる。

2 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

「YES」表示が点滅します。



3 SET ボタンを押す。

クリアチャンネルスキャンがスタートし、空いているチャンネルを探します。
クリアチャンネルスキャンが完了すると、雑音や妨害電波の影響が最も少ないチャンネルに設定されます。
チャンネルが設定されると、自動的に赤外線送信がスタートします。

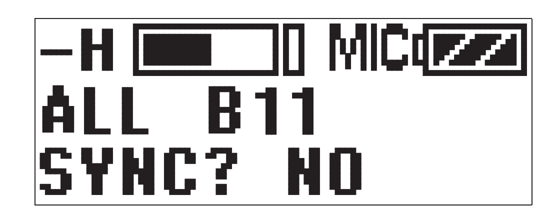
ご注意

電源を入れるとノイズが発生する場合がありますので、本機に接続した機器の音声入力レベルを絞ってから電源を入れてください。

4 送信機のSETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

5 本機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

本機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。



6 送信機の＋または－ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

送信チャンネルとコンパンダーモードが設定されます。

ご注意

- 手順**3**の本機からの赤外線送信は、約 10 秒間行われます。10 秒以内に手順 **4**、**5** の操作を行ってください。
  10 秒を超えてしまった場合は、本機の SYNC 画面から再度赤外線送信ができます。
- 送信機と本機は、約 20 cm 以内に近づけてください。
- 送信機のディスプレイに確認メッセージが表示されてから何も操作せずに約 5 秒間経つと、チャンネル変更が行われず、元の状態に戻ります。
- 赤外線を利用した通信のため、周囲の環境によっては正常に通信できない場合があります。そのときは本機の SYNC 画面から、再度設定してください。

グループ / チャンネルを手動で設定後、赤外線通信でチャンネル設定する（SYNC）

1 グループ / チャンネルを設定する（5 ページ）。

2 MENU ボタンを押して RX1 メニューまたは RX2 メニューを表示させ、＋ボタンまたは－ボタンを押して SYNC 画面を表示させる。

3 SET ボタンを 1 秒以上長押しする。

確認画面が表示されます。

4 ＋ボタンまたは－ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

5 送信機のSETボタンを押しながらPOWER/MUTINGボタンを 1 秒以上長押しして、電源を入れる。

6 本機の赤外線送信ポートと、送信機の赤外線受光部を近づける。

本機で設定したチャンネル情報が送信機へ送られ、送信機のディスプレイに周波数を変更するか確認するメッセージが表示されます。



7 送信機の＋または－ボタンで「YES」を選択し、SET ボタンを押す。

送信チャンネルとコンパンダーモードが設定されます。

メニューの表示と詳細設定

メニューの構成と階層

メニューの構成

UTILITY メニュー

チューナー 1 および 2 の各種情報が表示されているメーター画面から UTILITY メニューを表示できます。
UTILITY メニューでは本機の基本設定およびワイヤレスアダプターと組み合わせたときの設定を行えます。

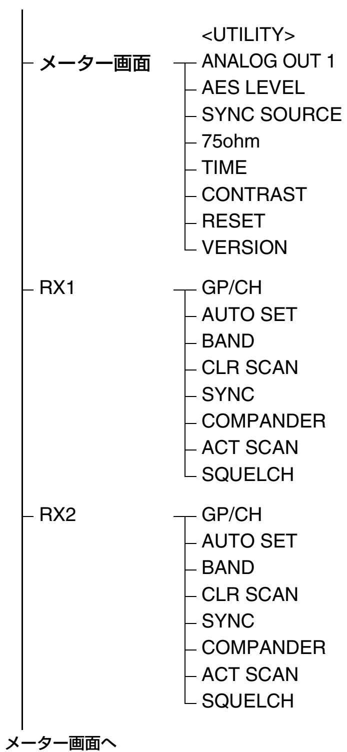
RX1（チューナー 1）メニュー

RX1（チューナー 1）の各種設定を行えます。

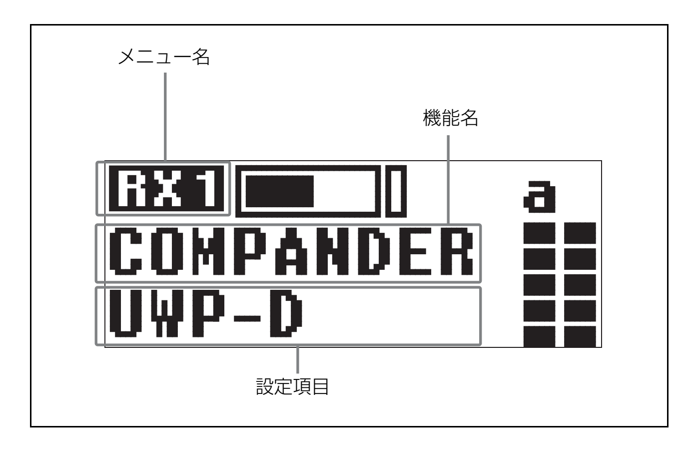
RX2（チューナー 2）メニュー

RX2（チューナー 2）の各種設定を行えます。

メニューの階層



メニューの基本操作



1 MENU ボタンを押して、設定または変更したいメニューを選ぶ。

ボタンを押すごとに、メーター画面、RX1、RX2、メーター画面の順番で切り換わります。
UTILITY メニュー内の項目を変更したい場合は、メーター画面を表示させてください。

2 ＋または－ボタンを押して、設定したい機能画面を表示させる。

3 設定項目が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

4 ＋または－ボタンを押して、設定を変更する。

5 SET ボタンを押して、決定する。

ご注意

電源スイッチが OFF になっているチューナーのメニューは表示されません。

UTILITY メニュー

UTILITY メニューは、本機の基本設定に関わる項目やワイヤレスアダプターと組み合わせたときの機能が含まれているメニューです。
ここでは機能の説明と変更項目を説明します。下線表記は工場出荷時の設定です。

ご注意

ディスプレイ右上に「ADAPTER」と表示される機能は、別売のワイヤレスアダプターと組み合わせた場合の AES/EBU 出力に関する機能です。カムコーダーとの組み合わせでは機能しません。

アウトプット 1 出力の選択（ANALOG OUT1）

HDCAM などのアナログ入力が 1 チャンネルのみのカムコーダーに接続する場合に、出力信号を選択します。また、ワイヤレスアダプター DWA-01D に装着し、DWA-01D の

OUTPUT2 端子を AES/EBU 出力として使用する場合に、OUTPUT1 端子からサブ出力として出力する信号を選択します。

ご注意

- OUTPUT2 の設定はできません。
- 各チャンネルの音量は、送信機のアッテネーター機能を使って調整してください。

RX1：チューナー 1 の受信音声信号を出力します。
RX2：チューナー 2 の受信音声信号を出力します。
RX1+2：チューナー 1 とチューナー 2 の受信音声信号をミックスして出力します。

AES/EBU 出力基準レベルの選択（AES LEVEL）

別売のワイヤレスアダプターの AES/EBU 出力の基準レベルを選択します。

ご注意

アナログ出力では機能しません。

－ 36dB LINEAR：送信機から送られてきた音声を、ヘッドルーム 36 dB を保ったまま出力します。
－ 20dB LIMIT：通常の AES/EBU インターフェースに合わせて、基準レベルを－ 20 dBFS に変更します。送信機から送られてきた音声はコンプレッサー処理されます。
－ 20dB ST LIM：－ 20dB LIMIT モードと同様に基準レベルを－ 20 dBFS に変更し、チューナー 1 とチューナー 2 の音声にかかるコンプレッサーをリンク動作させせます。2 台のトランスミッターでステレオ音声素材を伝送するときに使用します。

同期信号の選択（SYNC SOURCE）

別売のワイヤレスアダプターを装着した場合の本機の同期信号源を選択します。
32 kHz － 6% から 96 kHz ＋ 6% までの外部同期（ワードクロック）に対応します。

◆ 同期信号をロックさせる方法について詳しくは、ワイヤレスアダプターの取扱説明書をご覧ください。

INTERNAL：内部の同期信号（48 kHz）で動作します。
AUTO：外部からの同期信号を優先し、外部同期が無くなった場合には自動的に内部同期に切り換わります。現在選択されている同期信号を「INTERNAL」または「EXTERNAL」で表示します。
EXTERNAL：外部からのワードクロック信号に同期して動作します。現在の同期状態を「UNLOCK」または「LOCK」で表示します。

同期信号の終端（75ohm）

ワイヤレスアダプターの WORD SYNC 入力端子を 75Ω 終端する機能です。

ON：75Ω で終端する。
OFF：75Ω で終端しない。

ご注意

本機の電源を OFF にすると終端は開放されます。

累積使用時間を表示する（TIME）

使用時間の目安として、受信機の累積使用時間を表示します。
工場出荷時の設定は、00:00 です。99:99 まで表示が可能です。

時間表示をリセットするには

1 時間表示が点滅するまで SET ボタンを長押しする。

2 －ボタンを押し、「00:00 CLR」が表示された状態で SET ボタンを押す。

「00:00 CLR」が表示された状態で＋ボタンを押すと、時間表示が点滅します。この状態で SET ボタンを押すと、累積使用時間のリセットがキャンセルされます。

表示の濃さを設定する（CONTRAST）

ディスプレイに表示されている文字やアイコンの濃さを、1 ～ 10 の範囲で調整できます。
設定できる値は以下のとおりです。
（淡）1 2 3 4 5 6 7 8 9 10（濃）

工場出荷設定に戻す（RESET）

すべての設定を工場出荷時の設定に戻します。
SET ボタンを長押しすると、工場出荷設定に戻すことを確認するメッセージが表示されます。＋または－ボタンを押して YES を選択し、SET ボタンを押すと、受信機の設定が工場出荷設定に戻ります。

ソフトウェアバージョンを表示する（VERSION）

受信機のソフトウェアバージョンを表示します。

RX1/2（チューナー 1/2）メニュー

◆ メニュー操作の方法について詳しくは、「メニューの基本操作」（9 ページ）をご覧ください。

RX1/2 メニューは、本機の主機能であるデジタルワイヤレスレシーバーの機能を設定するメニューです。

グループ／チャンネルを選択する（GP/CH）

工場出荷時の設定は、お使いのモデルにより異なります。

◆ 詳しくは「受信チャンネルを設定する」（5 ページ）をご覧ください。

自動で空きチャンネルを設定する（AUTO SET）

空きチャンネルを検索後、自動的にチャンネルを設定し、送信機へ赤外線送信を行います。

◆ 詳しくは「空きチャンネルを検索し、赤外線通信でチャンネル設定する（AUTO SET）」（8 ページ）をご覧ください。

周波数帯域を選択する（BAND）

受信周波数帯域を選択します。

ご注意

日本国内向けモデルおよび韓国向けモデルには、このメニューはありません。これらのモデルでは、周波数帯域は選択できません。

◆ 各周波数帯域に含まれるグループとチャンネルについて、詳しくは CD-ROM に収録されている周波数リストをご覧ください。

空きチャンネルを探して選択する（CLR SCAN）

空きチャンネルを検索します。

◆ 詳しくは「グループ内の空きチャンネルを検索する（クリアチャンネルスキャン）」（6 ページ）をご覧ください。

赤外線送信を行う（SYNC）

赤外線通信を使って、受信機で設定した周波数およびコンパンダーモードを送信機に送信します。

◆ 詳しくは、「グループ / チャンネルを手動で設定後、赤外線通信でチャンネル設定する（SYNC）」（8 ページ）をご覧ください。

コンパンダーモードを設定する（COMPANDER）

コンパンダーの動作モードを設定します。

◆ 詳しくは、「コンパンダーモードを設定する」（6 ページ）をご覧ください。

すでに使用されているチャンネルに設定する（ACT SCAN）

すでに使用されているチャンネルを検索します。複数の受信機を、1 つの送信機と組み合わせて同時に使う際に便利です。

◆ 詳しくは「グループ内の使用チャンネルを検索する（アクティブチャンネルスキャン）」（6 ページ）をご覧ください。

スケルチ機能を設定する（SQUELCH）

スケルチ機能を ON にすると、受信待機時の不要信号やノイズを除去することができます。

◆ 詳しくは、「スケルチ機能を使う」（7 ページ）をご覧ください。

エラーメッセージ

ディスプレイ部には、通常表示の他に次のようなエラーメッセージが表示されることがあります。

表示	意味	対応
EEP ERROR	バックアップメモリーデータにエラーが発生しました。	お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
PLL ERROR	PLL シンセサイザー回路に異常があります。	電源を入れ直してみてください。それでも直らないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にご相談ください。
NO TONE	本機で設定したコンパンダーモードとは異なるトーン信号の電波を受信したため、オーディオ信号出力がミューティングされています。	使用する送信機に合わせて、コンパンダーモードを設定してください「コンパンダーモードを設定する」（6 ページ）。 UWP-D シリーズの送信機（UTX-B03、UTX-M03 など）を使用する場合は、送信機と本機のコンパンダーモードを同じ設定にしてください。

故障かなと思ったら

修理に出す前に、もう一度点検してください。それでも正常に動作しないときは、お買い上げ店またはソニーのサービス窓口にお問い合わせください。

症状	原因	対策
電源が入らない。	カムコーダーのスロットもしくはワイヤレスアダプターに正しく挿入されていない。	奥までしっかり装着し、本機の装着ネジでしっかり固定してください。
音が出ない。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
	ワイヤレスアダプターに装着時、同期信号の設定が適切ではない。	同期信号の選択（SYNC SOURCE）機能で同期信号をINTERNAL に設定するか、外部同期信号で運用している場合には、同期信号の接続が正しいことを確認し AUTO または EXTERNAL に設定してください。
音が歪む。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	送信機と受信機のコンパンダーモードが違っている。	送信機と受信機のコンパンダーモードを合わせてください。
音切れ、ノイズが発生する。	送信機と受信機のチャンネルが違っている。	送信機と受信機のチャンネルを合わせてください。
	2 本以上の送信機が同じチャンネルになっている。	同一チャンネルで 2 本以上の送信機は使用できません。付属の CD-ROM に収録されている周波数リストに従って各送信機のチャンネルを設定し直してください。
	チャンネルが同一グループ内の設定になっていない。	本機のチャンネルプランは、2 本以上の送信機を使用する場合、それぞれの送信機が混信しないように設定してあります。使用する送信機を同一グループ内のチャンネルに設定し直してください。
	近接チャンネルで運用している。	2 チャンネル（250 kHz）以上離れたチャンネルを使用してください。
	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
	スケルチ機能が OFF になっている。	スケルチ機能を ON にしてください。（7 ページ）
送信機の電源を切っても、受信機の RF インジケーターが点灯している。	妨害電波が出ている。	受信機のチャンネルを RF インジケーターが点灯していないチャンネルに設定するか、クリアチャンネルスキャン機能を使って妨害のないチャンネルに変更してください。次に、送信機を受信機と同じチャンネルに設定してください。2 本以上の送信機を使用している場合は、妨害電波のない他のグループに変更してください。
赤外線送信で、送信機のチャンネルが設定できない。	送信機の赤外線受光部と、受信機の赤外線送信ポートが離れている。	送信機の赤外線受光部と受信機の赤外線送信ポートを約 20 cm 以内に近づけてください。
	他の機器で赤外線通信を行ったり、直射日光により妨害を受けている。	強い陽射しなどで妨害を受けると、通信距離が短くなることがあります。送信機と受信機をできるだけ近づけてください。

使用上のご注意

使用・保管場所

- UWP-D シリーズの機器を電力機器（回転機、変圧機、調光器など）に近接して使用すると、磁気誘導を受けることがありますので、できるだけ離して使用してください。
- 電飾などの照明器具により、かなり広範囲の周波数帯域にわたり電波が発生し、妨害を受けることがあります。この場合、受信機のアンテナの位置や送信機の使用位置により妨害が増減しますので、なるべく妨害を受けない位置で使用してください。
- UWP-D シリーズの機器を騒音の多い場所で使用すると、振動が直接本体に伝わり、雑音発生（マイクロホニック）の原因となり、規定の S/N を満足しない場合があります。影響を受けると考えられるものには次のようなものがありますので、充分に注意してください。
  - 回転機、変圧器などの付近
  - 空調機器より発生する騒音、または風を直接受ける場合
  - PA（Public Address）システムのスピーカー付近
  - スタジオなどに設置していて、スタジオの機器をぶつけたり、たたいたり、物を落としたりした場合

  対策として、影響を受ける条件からできるだけ離す、緩衝材を敷くなどしてください。

お手入れ

表面や端子部の汚れは、乾いた柔らかい布で拭き取ってください。シンナーやベンジン、アルコールなどの薬品類は、表面の仕上げを傷めますので使用しないでください。

電波干渉を防ぐために

使用時に外来雑音や妨害電波などの影響で雑音が発生し、使用できないチャンネルが生じることがあります。このような場合は、電波干渉を防ぐために電波の発射を停止する（電源を切る）か、あるいは周波数の変更（チャンネルの切り換え）を行ってください。

携帯通信機器による電磁波障害を防止するために

携帯電話などの通信機器を本機の近くで使用すると、誤動作を引き起こしたり、音声に影響を与えることがあります。本機の近くでは、携帯通信機器の電源はできるだけ切ってください。

主な仕様

アンテナ端子　BNC-R、50 Ω（2）

RF スケルチレベル
15 dBμ/OFF（0 dBμ=1 μV）

音声出力レベル　－ 40 dBu（0 dBu = 0.775 Vrms、変調周波数 1 kHz、周波数偏移 ± 5.0 kHz 時）

アクセサリー端子
D-sub コネクター（15 ピン）（1）

受信方式　トゥルーダイバーシティ方式

局部発振　水晶制御 PLL シンセサイザー

受信周波数　806 MHz ～ 810 MHz

S/N 比　60 dB 以上（A-weighted）

音声遅延　0.375 ミリ秒

ディエンファシス
50 μs

基準周波数偏移　± 5 kHz

周波数特性　40 Hz ～ 15 kHz

ひずみ率　0.9% 未満（変調周波数 1 kHz、周波数偏移 ± 5.0 kHz 時）

トーン信号　コンパンダーモードを UWP-D に設定時：32.382 kHz
コンパンダーモードを UWP に設定時：32 kHz
コンパンダーモードを WL800 に設定時：32.768 kHz

インジケーター　POWER1/2、RF1/2

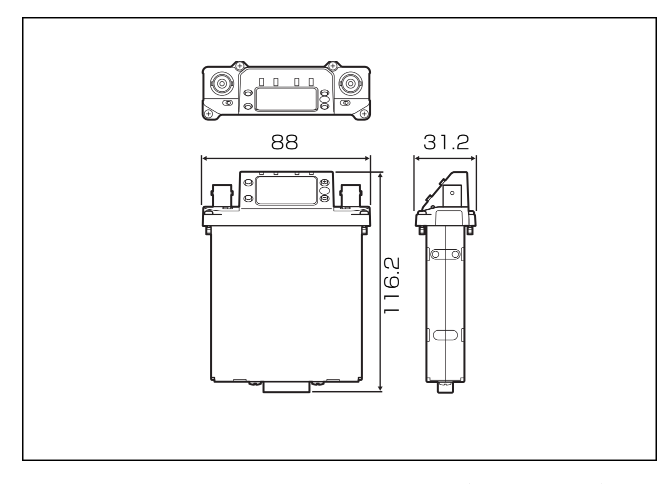
許容動作温度　0 ℃～ 50 ℃

許容保存温度　－ 20 ℃～＋ 55 ℃

電源電圧　DC 7.0 V（カムコーダー、またはワイヤレスアダプターから供給）

消費電流　200 mA 以下（DC 7 V 時）

外形図



寸法　88 × 116.2 × 31.2 mm（幅／高さ／奥行き）

質量　約 303 g（付属アンテナ取り付け時）

付属品　ホイップアンテナ（2）
ご使用になる前に（1）
CD-ROM（1）
保証書（1）

仕様および外観は、改良のため予告なく変更する場合がありますがご了承ください。

- お使いになる前に、必ず動作確認を行ってください。故障その他に伴う営業上の機会損失等は保証期間中および保証期間経過後にかかわらず、補償はいたしかねますのでご了承ください。
- 本製品を使用したことによるお客様、または第三者からのいかなる請求についても、当社は一切の責任を負いかねます。
- 諸事情による本製品に関連するサービスの停止、中断について、一切の責任を負いかねます。

お問い合わせは

「ソニー業務用商品相談窓口のご案内」にある窓口へ

ソニー株式会社　　〒108-0075　東京都港区港南1-7-1

http://www.sony.co.jp/